

学院通信 第289号

すべての学期を 立教で、みんなで過ごすことができた*

対面で迎える3学期は2年ぶり。昨年度はロックダウンのために、1学期と3学期は休校を余儀なくされました。今年度は全ての学期を対面で行うことができました。

季節の針は音を立て、また次の春を迎えようとしています。冬があって春があるように、過去があって今があります。喜びも悲しみも、嬉しさも寂しさも、思い出全て、一緒に次の場所へ。少し重いかもしれないけれど、この春風は、前に進もうとする私たちの背中を、そっと優しく押してくれるから。

Contents...

- * アウティング
- * ひな人形
- * 卒業生スピーチ

- * 生徒会選挙
- * 公式Instagramの紹介
- * 今年でご退職される教職員の方々

- * 部活動
- * 第3学期卒業終業礼拝
- * オフショット





「誰だ？ 晴れ男、晴れ女は。」

朝一番、空を見上げる先生の、この一言から始まったブレイク3日目。今学期も無事、アウティングに行くことができました。高校2年生はウィンチェスター、高校1年生はリーズ城、小中学生はブライトンとホーリー・シャムを訪れました。

あっという間の3学期で、学校が始まったかと思えばすぐに期末試験へのカウントダウンですが、そんな多忙な学校生活の中で羽を伸ばす一日となりました。



快晴！ アウティング

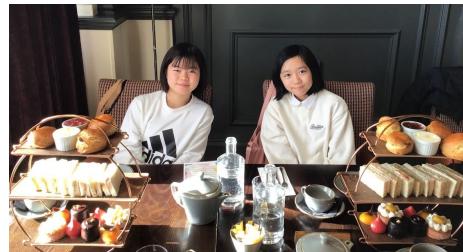


Student's Essay <Outing> 1/3

外に出て、日本とイギリスの違いについて感じたことは、日本ではマスクをついている人のほうが多いけど、イギリスではマスクをつけていない人の方が多いことや、道路がガタガタだったり、お店が5時30分ぐらいにはだいたい閉店してたことです。また、アウティングに行く前に先生が説明していた、ロイヤルワントについては、スーパーや1ポンドショッピングなどで探して見ると、タバスコやクッキー、ケチャップ、洋服、帽子などと思ったより多くあり、家族へのおみやげにロイヤルワントのついたチョコレートを買いました。

また、お店などで英国人に英語で話してみたところ、簡単なThank youやHelloなどは通じたけど、How much is it? や Receipt please.などのちょっと発音が難しい英語はうまく通じませんでした。前のアウティングでは、いらない物を買って、一週間ぐらいしか使わず、お金の無駄遣いをしてしまったけど、今回はきちんと「これは必要かな?、本当に使うかな?」と考えて買ってみたら、お金の無駄遣いにならず、本当にいるものだけを買うことができました。でも £30も残って、お小遣いが流石にあまり過ぎました。次のアウティングでチャレンジしたいことは、もうちょっと英語を使うことと、計画的に買い物をすることです。

(小学部6年生 男子)



【他の作文へリンク】

[小中学部](#)

[高等部](#)

「立教に来てから初めてのouting！！」ということで、昨日は待ちに待ったoutingに行ってきました。一番印象的なのは、「と書こうと思いましたが、全てを最高に満喫できたので、順を追って書いていこうと思います。

まず、初めてBrightonへ訪れて、最初に頭に浮かんだことは、"ドーナツ"でした。"ドーナツ"というのは、「British Airways i360」のことです。日本では、到底見られないようなユーモアのある、形をしていました。また、上に登っていくに連れて、東京スカイツリーから見える景色とは違い、BrightonのThe・イギリス、といった雰囲気を味わうことができました。そして、海もとてもきれいで、海風が気持ちよかったです。

次に、中1は昼食にAfternoon Teaへ行きました。私は、イギリスの食事で、一番Afternoon Teaが好きなので、昼食が決まったときは、とても嬉しかったです。また、私は、以前にもAfternoon Teaを食べたことがありましたが、お店によって違った紅茶やケーキがあり、新鮮な気持ちになりました。

食後は、Horshamへ行き、班行動となりました。私達は、たくさんのお店を回って、思い思いのショッピングができました。また、先生が考えてくださった、「Brighton探検」ミッションも、良い思い出となりました。

そして、Horshamで購入したそれぞれの夕食も、いつもの立教生活とはまた違った、学年ごとでとる珍しい食事で楽しい時間でした。今回の校外学習はイギリスについて深く学ぶ機会となり、イギリスの文化を感じることができました。また、公共の場に出て、実際に英語を使う体験ができて、良い機会になったと思います。もう少しで、期末テストがあったり、忙しくて、すぐに帰国になると思いますが、毎日を大切にして、たくさんのいい思い出ができるならいいと感じました。

(中学部1年生 女子)

Student's Essay <Outing> 2/3

アウティングが終わり、生徒会選挙に出馬する友達の雄叫びや、昨日のリュックによる肩こりを感じながら作文を書いていると、もうアウティングは終わったんだと実感でき一気に現実に引き戻された感覚に陥る。

面接後のドミ替え。多忙な日々が続き、「最近忙しすぎ！」と話していた私達中3にとって学校から開放されるアウティングという行事はとてもありがたい行事であった。しかも、この一日が終わったら生徒会選挙、持久走、そして期末テスト三週間前。つまり何が言いたいのかというと、このアウティングである1月31日を思う存分楽しむというのがどれだけ重要なのか、ということだ。

普通作文と言ったらその日の出来事を「中でも印象に残ったのはー」などといい、2、3個書くようなものなのだろうが、昨日のアウティングは何をしましたか？と聞かれて思い出せるのは行った場所、それを見て感じたことよりも、ごく僅かな、何気ない出来事や、友達と交わした会話の方が鮮明に頭に浮かぶ。

コーチに乗り込み立教の門をくぐり抜ける度、毎回お馴染みの「久しぶりのシャバだ。」というセリフにちゃんと吹き出し、自分の胸が踊っていることに気づく。目的地につくまで私達、「乗り物酔い激しい組」はバスの前方で静かに目をつぶりながら脳やかな後ろの笑い声をBGMに景色を楽しむ。

バスを降ります最初に感じる海の匂い、冷たい風の中に温かい日差し、そして遠くまで広がる海の開放感。「日本どっち方面？」と聞く友人に、真面目に考える私達。海辺、でかいタワー、すべての瞬間にレンズを通して仲間を撮る。浅瀬を駆け回る細すぎる足、鳥に対抗する男子、ちょっと照れくさい雰囲気の男女、高所恐怖症の友達、全てのメモリーに笑い声や笑顔が溢れていって、いつかこれを見返したときにちゃんとその幸せな光景を思い出せるように画面いっぱいに笑顔を写す。画面外に広がる笑顔は今の私達しか知らない、もしかしたらこれも少し経てば思い出にもならず失くなってしまうのかもしれない、そんな不安にどんどん写真のフォルダが一杯になっていく。「icloudに十分な空き容量がありません」この言葉を幸せだと思ったことが今まであったんだろうか。とにかく、全ての瞬間がアウティングという名目がつくだけで愛おしいものに変わり私達の中に刻まれていく。

日が落ち、いつも通り教室に戻ってきて今日の教室は一味違う。美味しい匂いが漂う中、そそくさと連絡を聞き、机を移動し食事を広げる。いつもの夕食よりも冷たくて乏しい晚餐かもしれないが、いつもの何倍も食が進む。もう入らないと嘆くお腹を無視するように放り込む甘いデザートは今日一日分の幸せをそのまま表していた。美味しいよと騙され食べた激辛プリングルス、辛いと分かっているながらも六枚一気に食べる友達。口の中が辛いおかげでまた甘いスイーツが胃の中に入る。

「太るー。まあいっかアウティングだし？」

アウティングという言葉はもはや魔法の言葉になっていた。

笑い声があふれる黄色い教室の中で思った。

この、一瞬一瞬の光景に溢れる笑顔こそがアウティングの魔法の正体なのかもしれない。

(中学部3年生 女子)

Student's Essay <Outing> 3/3

今回もまたアウティングに行けたことをとても嬉しく感じています。3学期に立教に来る前はアウティングがあるとも知らず、1月の終わりにアウティングがあると聞いたときはとても嬉しかったです。前回は班行動などがなかったため、思うように行動ができませんでしたが、今回のアウティングでは3時間ほどの班行動があったためとても有意義な時間を過ごすことができました。実際立教では英国にあるものの立教内で常に行動しているのですこし物足りないところがありましたが、外で、しかも自由行動があるとなるととても幸せな時間を友達と過ごすことができました。

今回は最初にリーズ城に行きました。リーズ城は世界で最も美しい城と言われるだけあり、周りの景色もそうですが城の中も綺麗なものばかりでした。僕は昔から芸術などには興味がなく、美しいと言われる絵をみても正直なにも感じるものはありませんでしたが、今回リーズ城ではいつもとは違う感覚を味わうことができてとても良かったです。

そこからバスで移動しブルーウォーターという大型ショッピングモールに向かいました。今までイギリスのショッピングモールには行ったことがなかったため良い経験になりました。夜ご飯にはWasabiという店で日本食を食べましたが、それがまたとても美味しく、久々に寿司などを食べられてとても幸せな時間を過ごせました。今回のアウティングは一段と時間の経過を早く感じたため、まだやり残したがいっぱいありますが切り替えて残りの立教生活、そしてテストに備えて対策していきたいと思います。

(高等部1年生 男子)

今学期の
アウティングの
動画はこちら👉



今回のアウティングは、人の優しさを体験したアウティングになりました。

今回一緒に行動した人たちは、高1のときにはあまり接点がなかった人たちでした。それでも、高2になり、同じクラス、同じドミになったりと接点が多く、仲が深まった人たちもありました。実を言うと、最初は少し不安もありました。ですが、今ではそんな不安はなんのためにあったのか分からぬほどバカバカしく思えてきます。そのぐらいのアウティングが楽しかったのです。移動しながら日頃の相談をし合ったり、くだらない会話を笑い合ったり、「建物が綺麗だ」「美味しいそうなケーキだね」など普段の会話との違いはほんの少しだったのかも知れません。それでも、普段の学校生活ではあまり気付けない会話の間に垣間見れる友達の優しさに心がとても温かくなりました。こんなにも優しい気持ちを持った友達がいることの幸せを改めて感じました。

今回のアウティングで優しさを感じたのは班のメンバーからだけではありません。

私達がお昼に行ったカフェで、アフタヌーンティーを頼もうとしていたら、キッチンが忙しくて、作れないと言われました。お昼過ぎだったので仕方ないと想い、他のものを頼もうとしたのですが、わざわざ私達のために作ってくださったのです。しかも、本当に美味しい、私にとって人生初めてのアフタヌーンティーだったのですが、店員さんの優しさと美味しさで、良い思い出になりました。

明日からは普段と変わらない学校生活を送ることになります。さらに、3週間後には期末テストが待ち受けています。テストが近づくにつれて自分の余裕がなくなってしまい、他の人を思いやることが難しくなってしまうかも知れません。そのことを踏まえた上で、今のタイミングでアウティングに行き、人の優しさに触れられたこと、本当に良かったと思います。どんなに自分の中で焦って、余裕が無くなりそうになんでも、他の人への優しさを忘れないでいたいと思います。

(高等部2年生 女子)



ブレイク最後の2月1日（火）には生徒会選挙が、またその週末の2月6日（日）の主日礼拝では、生徒会の任命式が行われました。

今回の生徒会は第50代生徒会ということで節目の年の生徒会になります。

また、生徒会役員全員が今年の小中学生から出でていたりと、かなり面白いメンバーが顔を揃えました。

第49代生徒会はこの日で活動が終了です。コロナ禍という前代未聞の事態となりましたが、その中でもバブルごとの交流やオンラインでのJapanese Eveningなどの企画、実行をしてくれました。

そんな第49代生徒会に称賛と感謝を、これから学校を背負っていく第50代生徒会には、期待を込めた大きな拍手を送りました。

（中学部3年生 広報委員）



白熱！

生徒会選挙



新生徒会

|

旧生徒会

女子クッキング部は、コロナの感染対策を考え、高2だけでしたが活動することができました。

今学期にはバレンタインがあり、何か作りたいという要望がたくさんありました。私としてもお菓子を作るのが好きで、友達と作ったらすごく楽しそうだなと前々から思っていたので、わくわくした気持ちで顧問の先生に相談しました。

まず、作りたいものを決めるこことなり、参加するメンバーの子たちに募集したところものすごい量の作りたいものが来ました。ほぼ日本食でみんな常日頃から食べたいと思ってるんだなとつくづく感じました。しかし、夕食の前に活動するためご飯系のラーメンやお好み焼き、焼きそばなどいうものはできませんでした。デザートだけに絞ったとしても約20種類ありその中から1つに決めるのはとても大変でした。

私達は投票の結果、クッキー層が付いたスイートポテトを作ることになりました。

レシピだけを見ると簡単で楽勝だと思っていたが、いざ作ってみるとレシピの問題だけではなく、みんなで手分けして洗い物をしたり材料を量ったりと周りを見ながら行動しなければならず、お互いに助け合い、声をかけあって仲が深まったと思いますし、私としては一人で作ることと大きく違くて、新鮮で楽しかったです。

また、さつまいもが日本の中が黄色ものと違って英国のものはオレンジ色で、水分量が違ったり、オープンが英國のものでどう操作したら良いかなどと、思った通りにいかない、苦戦することがありましたが、こういうところは立教英國のクッキング部ならではの気を配らないといけないところや悩みでとても面白かったです。

今年度初めての活動は顧問の先生の助けや協力、そしてメンバーの子たちのおかげで美味しく作ることができて大成功でした。終わった後に「美味しかった！」や「また活動したい！」と笑顔で言ってくれた子がいて、やりがいがありましたし素直に嬉しかったです。

次は学年混合で美味しいお菓子を作りたいです。

(高等部2年生 女子)

部活動紹介

-女子クッキング部-



対外試合

- バレーボール部 / サッカー部 / テニス部 -



高校3年生が2学期で引退し、代替えとなった各部活動。新しく発足したチームは、技術もチームワークもまだまだ発展途上です。しかし、声をかけ合いながら、一本一本を大切にプレーをしていました。

快勝とならない試合もありましたが、帰路では互いの健闘を称え、課題を共有。春に再戦を誓い、また練習に励む部員たちです。



ひな人形



数日後の卒業終業礼拝に向けて、低学年でひな人形の飾り付けを行いました。一期生の方々が、遠い日本にいて参加できない卒業生たちの代わりにと、40年以上も前に日本からわざわざ運んできてくれたのです。

今年も、コロナ禍で学校に帰ってくることが出来なかった高校3年生を代表して式に参列しました。



Official Instagram



このQRコードから
アクセスできます！

A screenshot of an Instagram profile page. The profile picture is a school crest with '1972' and 'RS'. The bio reads: '立教英國学院Rikkyo School In England 学校 立教英國学院の公式アカウントです。四季の移り変わりをテーマに、立教英國学院の今を紹介していきます。 いただいた質問等にはお答えしておりません。' The stats show 64 posts, 641 followers, and 3 following. Below the bio are six thumbnail images: a blue baseball cap with 'RS', a blue diploma, a group of students outdoors, a close-up of purple crocuses, a table with food items, and a red brick building.

立教英國学院は、2017年より公式Instagramを始めています。

今後は新たに発足した広報委員会が主体となって本格的に運用を行っていきます。

四季の移り変わりをテーマに、立教英國学院の「今」を紹介していますので、ぜひ「フォロー」をよろしくお願いします。

ハッシュタグ

「#rikkyoschoolinengland」

「#立教英國学院」
をご活用下さい！



第3学期

卒業終業礼拝



3月5日、卒業終業礼拝が執り行われました。

今年度は、

小学部6年生 6名

中学部3年生 19名

高等部3年生 46名



合計71名が卒業証書を受け取りました。

この日のために、受験で帰国している高校3年生も14人参加してくれました。

参加できない生徒のために、卒業生から寄贈された雛人形の卒業式への参加も44回目を迎えます。

卒業し立教を去る生徒、転学をする生徒、退職される先生に向けて、全校生徒教職員で送別の祈りをささげました。

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

新天地での活躍と成長を心から願っています。



Graduates' Speeches (Primary)

私が立教英国学院に入学した小学5年生の年は、新型コロナウイルスの感染が世界で拡大していました。そのため、2学期しかイギリスに来て勉強や寮生活をすることが出来ず、他は全てオンラインでした。「早くイギリスに行って色々なことしたいな」と先生とお話をしているなかで毎日思いました。



しかし、オンライン上でも対面のように学べたことがありました。それは先輩や同級生との関わり方です。私は、初対面の人と喋るのが苦手で、1学期、初めてzoomでみんなと集まったときはどうやって話したらいいか戸惑っていました。ですが、6年生、今の中1が優しく話しかけてくれたり、先生がHRの時に少人数だけ話す部屋を作ってくれたりして、先輩や同級生と仲良くなることが出来ました。

夏休みになると、コロナも少し落ち着いて「2学期はイギリスに行くことが出来るよ」と家族から伝えられました。でも、そのとき私のもとにはまだビザがありたパスポートが届いていませんでした。コロナのせいでビザセンターが混んでいたからです。なので、「飛行機の出発までにパスポートが届かなかったらどうしよう」ととても不安でした。結果的には間に合いましたが、パスポートが家に届いたときには出国まで24時間切っていました。そのときに感じた喜びと安心感は、一生忘れる事のないものだと思います。

待ちに待った2学期、立教英国学院に行くと、先輩方にここでいのちは教えて貰いました。ベットメイクを綺麗に行う方法や食事の席での調味料の回し方、各教室の場所など。緊張していて、しかも分からないこともたくさんあってとまどっていた中、先輩や先生方が優しく丁寧に教えてくださって緊張がほぐれていきました。

このまま3学期もみんなに会えると思ったら、再びのロックダウン。3月まで待たずに立教小学校から来ていた2人の同級生とも突然の別れ。心にぽっかり穴が空いたようでした。



小学6年生になると、同級生が4人、5年生は新しく3人入ってきました。女子も、1人だったのが3人に増えて嬉しかったです。でも、最初はベットメイクのやり方などを教えるのが大変でした。先輩たちのissaを改めて感じました。

今年はアウティングや授業で外出することが出来るようになりました。なので、英国の方と話したりイギリスの町並みにふれる機会が前よりも多くなりました。また、バブル制度が徐々に緩和され、高校生の先輩方と話せる場面も増えました。ブレイクの時間や食事の席、部活動などで話しかけてくださった先輩ありがとうございました。



中学生になったら、これまで以上に英語の勉強を頑張っていきたいです。今、英國の方と話す機会があっても、話の内容が分からなくてスムーズに会話をすることが出来ないので、これからは国際交流やホームステイで積極的に話せるまで英語力をあげたいです。

この2年間は、コロナ禍で不自由なことや、辛いこともあったけれど、普段通り過ごすことのできるありがたさを再認識することができました。中学部に進学しても、この感謝の気持ちを忘れずに、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思います。先輩や先生方、今まで助けてくださったり、色々な事を教えてくださって本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願ひします。



Graduates' Speeches (Middle School) 1/2

みんな、初めてこの学校に入ってきたときのことを思い出してみて。小学部で入ってきた人も、中1で入ってきた人も、中2、中3で入ってきたみんなも、そして山縣先生も。なんかわからないけど、すぐにクラスのみんなと馴染めたんじゃないかなって思う。

それはきっとこの中3というメンバー、クラスだからなのではないかなと思う。なんかというとこのメンバーはいつでも明るくて、賑やかで、一人ひとりの個性がめっちゃ強いクラスだからだと思うな。だからかわかんないけど「このクラスの雰囲気すごく好き」と色々な先生から何度も言わされたよね。と、このように、僕たち中学3年生は、立教のみんながうらやましがるような完璧なクラスなのです。

中1で入ってきて初めての期末試験、吉田覚てる？？ 「太陽に当たりタイヨウ」とか言って全然勉強しなかったこと。あれなんてもう二年以上も前の話なんて信じられないよね。でも中3最後の期末テストでは放課後まで教室に残って、最後まで頑張ってたよね。

僕のIpodには色々な懐かしい写真や、動画が山のように入っている。この動画をたまに教室でみんなと一緒に見たりもして、「こいつこんな事やってたなあ」とか言って、みんなで笑い合って。すごくいい思い出だよね。今思うと、立教に入学したのはついこの間のことののような気がする。というのも、立教でみんなと一緒に過ごすことができたのは、二年と一学期間しかない。

だけど、みんなと離れ離れで過ごした時間が、今の中3を作り上げたといつてもいいと僕は考えている。みんなにとって、コロナはネガティブな印象が強いと思う。コロナによるオンライン授業は、やっぱり生で受けれるよりは劣る部分もあった。だけど、一日の最後の授業、ホームルームだけは、すごく面白くて、僕にとって一番の楽しみでもあった。唯一、そこの時間だけが今日の出来事を自由に話すことができたし、何よりも、みんなと話題を共有することができたことは一番うれしかった。コロナという誰にとっても苦しく、つらい状況になっても、中3というクラスは、みんなで、どうすれば、この状況が楽しくなるかを考えることができた。オンライン上でも笑顔がたえることはなかった。オンラインでも騒がしかった。

このようにして、このようにしたからこそ、常に明るく笑顔が耐えない今の中3が出来上がったのだと思う。)

僕が思う、中3のいいところをもう一つ。必ず、次の日には、すべてがリフレッシュされているということである。例えば、友達と喧嘩しても、それがどんなに深刻なことでもご飯食べて寝れば、次の日には絶対どちらかが謝って解決している。クラスメイトに対して恨みを持ったり、陰口を言う人なんて一人もない。そんな完璧で最高なクラスにこのままずっとにいたいけど、一生このメンバーと過ごしたいけれど、時間というものは絶対に止まってくれない。僕たちは、必ず来学期を迎える、高1という学年になって、たくさんの新入生を迎える。それがどんなに嫌でも、時間というのはともに寄り添ってはくれない。

クラスのみんなに「新入生が入ってきたらどうする？」って聞くと、答えは必ず、「えー、今の俺のポジション変わっちゃうじゃん」とか「今の元メンとは話さなくなっちゃうじゃん」とかいう、新学期を迎えることへの「不安」の声をよく聞く。けれど、一度新入生の立場にもなってほしい。彼らにとって、僕たち元メンは、すごく頼りがいのある友達となるだろう。



Graduates' Speeches (Middle School) 2/2



最初は、新入生どうまく喋れないかもしれない。うまくいかなくてイライラするかもしれない。だけど、そうなったとき、一つ約束してほしいことがある。絶対に一人で悩まないでほしい。うまくいかないからなんだ、そのために仲間がいるのである。元メンとは新入生を大きく、そして強く支える柱だろう。仲間と協力して新入生との仲間の輪を広げて行こう。そしてまた、今のような完璧なメンバー、クラスにしていこうよ。

そこで、忘れてはいけないこと。僕たちが楽しく学校生活をおくるためにには、当然、その環境がないといけない。つまりその環境にいさせてくれる人、それを全力で応援してくれる人がいなければならぬ。その人物こそ、みんなの親であろう。親というのは私達子供のことを誰よりも思い、その思いは私達子供がどんなに失敗しても、どんなに悪いことをしても命をかけて一生自分たちを思ってくれている。そんなお父さんお母さんがいるからこそ、今この生活ができている僕達の立教生活があるので。ただもちろん、そんなことを思ってくれている親がいくら自分たちを応援してくれたって、その環境がなければ、またその環境を支えている人がいなければそれは成り立たない。お掃除のスタッフや理事の方々、そして今のこの中3という学年の雰囲気を作ってくれた、先生たちにも感謝しなければならない。ふざけたとき、その限度を教えてくれた先生たち、勉強に困ったときどんなに単純な質問でもしっかり教えてくれた先生たち。そんな先生たちとは高校生になったら関わる機会が少なくなるかもしれない。けれど今までの関わり合いの中でいまの僕たちをつくってくれたこと、そのことに感謝をすることで、もう関わりが今までとは少なくなって悲しくても、寂しくても、みんなの感謝の気持ちはちゃんと、先生たちに届く。だから安心して進学してほしい。僕たちのこころは十分、先生たちとも通じ合っている！

みんな、いつか小林先生が言った言葉を覚えているかな。先生は「人生はゲームだ」そう言っていた。ゲームは自分以外の誰も操作することができないことと同じように、自分を変えられるのは自分だけだ。やることがたくさんあって後回しにすることも、先にやってしまうことも自分次第だ。しかし、やることに追われるのではなく、やることを追う、ぐらいの意識でこそ、その人生というゲームは面白くなるのだと思う。ときには自分ではどうしようもないような「困難」に出会うかもしれない。だけど、そういうときこそ、一人で立ち向かうのではなく、仲間と協力して（分け合って、支え合って）その「困難」と一緒に乗り越えていく（乗り越えていくことができるんじゃないかな）。みんなが何かに向かって一つになるとき、その姿は人を動かす原動力となる。またその姿は、人に勇気を与え、みんなの友達を大切にする思いは必ず、誰かを突き動かす力になる。僕も生徒会長として、仲間と協力しながら、立教を支えていきたい。



My class teacher once said that 'Life is a game'. There are many different things to do in our life. The game called life can only be fun if we are not driven by the things we have to do, but instead driven by the things we enjoy. You may sometimes encounter difficulties that you think you cannot overcome, but it is the time that you spend cooperating with your friends and overcoming them together. We are already in a great family, but in a few weeks we start our new family life with lots of new friends. Now I'm really excited thinking about the next three years here in Rikkyo.

ただそのゲームができる事、そのゲームが面白いと思う環境にあること、それを感謝することでまた一段と、そのゲームは面白くなっていくはずだ。

(中学部3年生 男子)

Graduates' Speeches (High School) 1/3

突然ですが、ポジティブフィードバックという言葉を知っていますか。簡単に説明すると、一つの原因が一つの結果をうみ、その結果にエネルギーが加わる、新たに大きな原因を生み出す、そしてそれが、無限に循環していくということです。

例を挙げると、テスト勉強をする、そうすると良い成績になって還元される。良い成績を収めると勉強の意欲向上につながる。より勉強することで、より良い成績を収めることができる。
と言った感じです。

まず、このポジティブフィードバックが私にどう働いたかを話します。私は中1で来たころは、この学校の特殊な環境に圧倒されて、学校に適応することだけを目標にして、積極的に動くことは少ない、どこにでもいる生徒でした。この学校ならではの行事などでも、特に積極的に取り組まず、それなりにこなすということだけをしていました。そんな中で、私が物事に積極的に取り組むきっかけとなったのが、中2のオープンディでした。そのオープンディで私はD Jのフリープロジェクトを企画しました。

企画当初は、D Jの勉強もしたことがなく、スキルも知識もない状態でしたが、少人数でそれなりの企画になるだろうと考えていました。しかし、その予想に反して、多くの人が集まり、かなり大きな企画になっていました。この時初めて、多くの人をまとめる立場に立ったことで、自分から動くことを求められ、その点でも積極的に取り組むきっかけにもなりました。また、このフリープロジェクトを企画したこと、成功したことで、自信と周囲からの信頼を得ることができました。このことが、次の年からのパフォーマンス企画とのコラボにつながり、2学期のクリスマスコンサートまで続けるまでになりました。

ここで思い出してほしいのが先ほどのポジティブフィードバックです。この言葉を今の経験に当てはめると、D J企画を立て、そして企画を成功させることができた、その結果、自信と信頼を得るというエネルギーが加わった。それが、パフォーマンス企画という新たな活躍の場に立つきっかけとなり、それを成功させることでより一層、自信と信頼を得ることにつながった。ということになります。

ここで私が言いたいことは、どんなことでもいいので進んで挑戦してほしいということです。行事でも趣味でも勉強でもなんでもいいです。どんな小さなことでもいいので、1つ積極的に挑戦することが大切だと思います。もし、それが失敗しても、失敗するまでに得られた経験や失敗から得られる学びは少なくないと思います。どんな結果になんでもプラスのエネルギーが加わって帰ってきます。

この積極性という点でもう1つアドバイスがあります。それは、自分の意見を持ってそれを自ら発信することです。これは立教生活を送る上でとても重要なことです。

皆さんの中には、「ここを改善するべきではないのか」、「ここを変えたらもっと学校生活良くなるのに」、「このルールおかしくないか」と学校への疑問や意見を日々持ちつつも、どこか面倒で、自分をいいように納得させていませんか。そして、ただ不満だけを口にし、卑屈になってしませんか。私は、その小さな意見や疑問を大切にしてほしいと思っています。

例えば、私は、その疑問や意見を学校に反映させるために中学の時に生徒会執行部の一員になりました。私はその時、様々な目標を立て、それを達成し、ありがたいことに、現在も日本語メニュー表という形で残っているものもあります。

このように、学校に対して与えられる変化や影響は少なくとも、少しでも変えられることはできます。そして、ここで自分の目標を達成できれば、それも自信や信頼を得るというポジティブフィードバックにつながります。もちろん、生徒会で活動することだけが意見を示す方法ではありません。

Graduates' Speeches (High School) 2/3

例えば、生徒会選挙の場で質問することもそうです。

ただし、私のように質問しすぎると、「怖い先輩」や「机の先輩」など言われるかもしれません、それはそれで自分の意見が印象に残っていいと思っています。

立教には、個人の意見や疑問を示す場所は多くあるかと思います。

投書箱や委員会活動もそうですが、先生方に直接話すというのも一つの手段です。立教では、日本の学校に比べ、生徒と生徒、生徒と先生が同じ環境で生活しています。そのため、個人の意見や疑問に生徒や先生が共感できる部分が多く、個人の意見や疑問が学校にとって重要なことが多いです。なので、まずは自分の意見・疑問を持つことを大切にしてください。そして、それを発信してください。

ここで1つ私が大切にしている言葉を紹介します。

その言葉は、

「真実だと思いたいという理由だけで、物事を信じるのは危険だ。自分に対しても、他人に対しても、疑問を投げかけることをやめてしまったら、だまされるかもしれない。本当の真実は、どんなに詳しい調査にも耐えうるものなんだ」

これは、天体物理学者カールセーガンの言葉です。

真偽が不明な情報が錯綜する現代にも言える言葉もありますが、積極的に物事に取り組めない人。自分の意見を持てない、表せない人にも言える言葉だと思います。

自分の思いを誤魔化しながら過ごしたり、答えはわかっているけどそこから逃げたり、挑戦すること、失敗することを恐れ1歩が踏み出せなかったり、その理由は様々だと思います。ですが、そこで自分の本当の思いを押し殺し、楽な方を信じて進んでしまう。疑問を持つことをやめて、他人の意見を全てを受け入れながら進んでしまう。このようなことは、自分の人生を進んでいるのでしょうか。学校ではただ受け身に過ごせば、それなりのゴールは見えてくるかもしれません。それではイギリスまで来て学ぶ意味がないのではないかでしょうか。

そこで私が言いたいことは、自分の意見や意思を持ち、それをもとに様々なことに挑戦してください。立教の先生、友人はこれを全て受け入れてくれるはずです。そして応援してくれるはずです。

とても偉そうなことを言いましたが、これが私からのアドバイスです。もし皆さんの立教生活を過ごす上で役に立てたら幸いです。

最後に、高三へのメッセージということで、少し話させてください。

高三の皆さん、代表で話させもらったけど、高三の思いはちゃんと伝えられていたでしょうか。

最後に高三のみんなにメッセージです。

長い人は6年間、短い人でも2年間、最高の立教生活をありがとう。

高1の時は、僕を含めて、毎学期数えきれない位の問題を起こして、先生方をこまらせ、学校に迷惑をかけていた。この場にも、カメラの向こうにも思い当たる人は何人もいると思う。

だけど、僕はそんな活気にあふれた学年が大好きだった。一緒にいて楽しくて、何より思い出がたくさん残る。「楽しい高校生活になるだろう」、高1では、そんなことを感じていた。

高2になって、その思いは打ち砕かれた。コロナウイルスだ。

だけど、実は、僕は一番短かったこの年が一番思い出に残ってる。この年は、みんなの真の力を見ることができた。

コロナウイルスの影響で、学校に戻れなくなった状況の中、濃い立教生活を送ったのは、この学年がいろいろなことを企画して、挑戦し、たくさん思い出を作る機会を作ってくれたからだと思う。その中でも、高2の時のオンラインオープンデイが1番印象に残ってる。生徒会・実行委員、(ここにいる竹内、河合、佐久間が)を中心に企画・運営を行い、クラス企画ではどんな役割にもその専門家みたいな人がいて、個人の個性、スキルが最大限活かされた作品が作れて、高一の時には見られなかったこの学校を支えて、導く姿を見ることができた。

Graduates' Speeches (High School) 3/3

このオープンデイ期間の中で、僕は熱で倒れ、クラス企画やフリープロジェクトを進めていけないことへの焦りや不安、一人きりという寂しさの中にいた。

だけど、この時僕は大切なことに気づけた。それは、みんなに支えられているという実感だった。僕の仕事を補ってくれたり、毎日meetしてくれたり、あの時は本当にそれに支えられて、みんながすごく頼もしくて、1人で感動してた。

本当にみんなに助けられた、ありがとう。

ここでみんなのピースが完全にはまって、本当に1つになれたのが高二だったと思う。そしてこのことが、高三の生活にも、すごく活かされていたと思う。

高三の時のスポーツデイも、初めての試みだったけど、学校全体を盛り上げようと動画作成では紺谷とか、ここにはいないけど中澤とかがすごいクオリティの作品を作ってくれて、新たな種目の考案などに取り組んで、学校に活気をとり戻した。

最後の2学期、ようやくみんなで食事をとることができて、その中でみんなが後輩とたくさんコミュニケーションをとって、高3全體が失われた立教生活を取り戻そうと一生懸命になって動いてくれた、そのおかげで、こんなに素晴らしい学校生活になったと思ってる。

毎日何かが起こって、良くも悪くも思い出が毎日残る。本当に最高の学年だった。

そんな毎日思い出を作っていたみんなと別れる実感がわからないけど、ここで一旦お別れみたいです。悲しくない、寂しくないと言ったら嘘になるかもしれません。ですが、この可能性にあふれたみんなの次の姿を見ることが楽しみでならないです。ありきたりかもしれません、またどこかで必ず会いましょう。

そして、家族、教員、スタッフの皆様、私たちの生活をサポートしていただいてありがとうございました。先生、スタッフの方には立教生活で、保護者の方々には、日本にいるときも、学校にいるときも、世界各国から心配し、応援し、学校生活をサポートしてくださったことに感謝しています。ここで高校生活は終わりますが、そして、成長という終わらないポジティブフィードバックを続けていきます。

最後に英国人スタッフの方に感謝を伝えたいと思います。

And now, on behalf of the H3 graduates, I would like to express sincere gratitude to the English teachers of EC, Biology, CT and Music for teaching us various things with great passion which have definitely broadened our horizons. And I would like to also thank the English staff who have supported us during the terms.

Thank you.

(高等部3年生 男子)



今年でご退職される教職員の方々

小川 真一 先生
(数学科)



佐藤 智花 先生
(養護)

小坂 剛 先生
(社会科)



Mrs Sharp
(EC dep)

荒木 美佳 先生
(保健体育科)



今年度は、5名の先生方が
立教をご退職されることになりました。
卒業終業礼拝では、立教での教員生活を振り返り、
熱い思いを話していただきました。
長い先生では34年。立教を支えてください、
本当にありがとうございました。

3学期 オフショット



Information

ご意見・ご感想はこちらへどうぞ。

>>> publicrelations@rikkyo.ac.uk

Rikkyo School
In England

Official
Home
Page

www.rikkyo.co.uk